

第 16 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 26 年 7 月 3 日(木) 14:00～15:40	
開催場所	薩摩川内市役所 601会議室	
出席者	委員	吉満会長、三本副会長、山本(豪)委員、梶原委員、徳丸委員、山本(文)委員、初田委員
	事務局	行政改革推進課長、同課長代理、同課職員
	傍聴者	なし

□会次第

事務事業外部評価	主管課・室
1 観光イベント事業	観光・シティセールス課

□議事

1 外部評価 観光イベント事業(観光・シティセールス課)

(事務事業の説明)

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 観光イベントに対する補助金について、年々縮小するのは間違いないと思う。観光イベントの商品化について、市外スポンサーを獲得するために調査・研究中とのことだが、このことについての手応えや、個別の案件について成果が上がっているものがあれば教えていただきたい。

●主管課 市内のイベントで市外からの協賛を集めるのは非常に難しいと言われている。ある広告代理店に相談したところ、調査してみましようという話になった。モデルケースとして、こしき島アクアスロン大会は、有名企業の協賛を得ている。参加者が 100 名前後、応援者まで入れて 150 名程の大会で、事業者としてどんなメリットがあるのかという思いもありながら相談したところ、条件の悪い地域でのイベントを支援しているということが企業イメージの向上につながるということで、協賛を頂くことができた。市としては、注目を集める魅力というのを、外からの目でチェックしていく必要があ

るだろうという観点から、「甌島観光イベント調査事業」として業務委託を行っている。

一方で、大きな課題は、地元の実行委員会が発想を変えてもっと収益を上げる取り組みをやっていくことが必要である。

例えば、いむた池納涼花火大会では、有料観覧席を 300 席ほど作ってみないかと実行委員会に打診するが、例年場所取りをしている観客に影響があるからという理由で取組が進まない部分もある。

もっと実行委員会の方々が積極的に収益を上げようという気持ちになるよう粘り強く伝えたい。

このイベントの収益力の強化と、外部目線での観光イベントの再評価の 2 方面から取組を進めているところである。

現在業務委託をしている広告代理店の意見では、甌の個別のイベントの協賛をもらおうとするより、例えば「〇〇企業は薩摩川内市のイベント・地域おこしに協賛しています」というように、全てのイベントをまとめて協賛をもらうという方法にできないかと言われている。

実はこの方法は以前されていた企業もあるため、どうだろうかということで、現場で悩みながら確認をしているところである。そういった協賛をする企業を募っていきけるよう、今から仕組みづくりをしていきたい。

○委員 観光イベントは今後そういう流れにならざるを得ないと思うので、頑張ってください。

(補助金の説明・8件)

- ・いむた池納涼花火大会補助金
- ・いむた池梅マラソン大会補助金
- ・いきファミリーハイキング補助金
- ・ウミネコまつり事業補助金
- ・うめんこ村事業補助金
- ・エコプロジェクト「海辺の学校」補助金
- ・こしき島アクアスロン大会事業補助金
- ・とうごう天神梅マラソン大会補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 いむた池納涼花火大会について、毎年100万円からの繰越金が出ているが、どのように考えているか。

●主管課 繰越については特別な事情がある。地元の企業の方が毎年大型の寄付をされているが、この寄付金を頂けるかどうかが開催日が差し迫った段階でないと分からない。この寄付金が100万円単位のものであり、実行委員会では、当初は寄付金を見込まない形で事業予算を作成するため、この額の繰越金になっているということであった。

本来であれば、この寄付金も見込み額として事業予算を作成し、もっと集客が望めるような取組を展開することで市の補助金負担が軽くなれば理想的であるので、今後協議をしてまいりたい。

○委員 いむた池梅マラソン大会は協賛金が0となっているが、実施団体はもう少し頑張って協賛獲得をしたほうがいいと思

うが、市から指導を行うことはできないか。

●主管課 おっしゃるとおり、市から実行委員会に対してお願いをしているところである。

○委員 うめんこ村事業補助金について、過去の実績補助額が15万円であるにもかかわらず、なぜ平成26年度は37万円の予算となっているのか。

また、過去3箇年補助額を超える金額を繰越金としている。

●主管課 祁答院うめんこ村では、毎年37万円の補助金の申請をされ、精算時に15万円となっている。

この状態が続いているので、おかしいということで今見直しをしている。併せて補助自体が必要であるかどうかまで言及して調整しているところである。

○会長 調査中ということか。

●主管課 交渉中・説得中の状況である。

○委員 エコプロジェクト「海辺の学校」、こしき島アクアスロン大会、とうごう天神梅マラソン大会についても、協賛金獲得の努力をしたほうがいいのでは。

○会長 これらのイベントは協賛金・寄付金の額は0ではない。

○委員 事業全体に占める割合が少ないと思う。

こしき島アクアスロン大会の実績報告では、旅費だけで100万円を超えている。イベント実施状況に、島外大会役員関係者76名と記載があるが、この76名の旅費だろうか、内訳を知りたい。

●主管課 こしき島アクアスロン大会は、日本トライアスロン連合公認の大会で、実際の運営は鹿児島県トライアスロン協会の運営となっている。また、イベント開催時には、ライフセーバーを鹿児島市から招聘している。

鹿児島県トライアスロン協会の運営スタッフ、そして安全管理上の対策としてライ

フセーバー等のスタッフを島外から呼ぶということで、旅費がこの額となっているところである。

○委員 観光イベントについては自主財源を増やしていかなければならないという主管課の説明はもっともであると思う。市の補助額が減るなかで、一つの方法として選択と集中という考え方もできるのではないか。

確かに、合併時に旧自治体で行っていた色々なイベントが集まってきて、以降もまんべんなくそれぞれのイベントに補助金を出されているように見受けられる。

そういう状況では、協賛金を集めて自主財源を確保してください、というコメントになるのだろうが、自分も地域イベントの実行委員長をした経験から、また地元の企業として協賛金を出す立場から言うと、夏場というのは、いろいろなイベント団体が協賛してほしいと言ってくるものである。

先ほど話がでた市外企業の協賛は別として、地域イベントというのは協賛する企業がある程度決まっているので、その中で協賛金を増やしていくというのは、なかなかイベント実行団体として厳しい状況である。

そういう状況で、例えば同じ地域の、同じ実行委員会で行っているような複数のイベントは、一緒にできないのだろうか。

イベントは残しつつ、他のイベントと同日開催にするなど合わせてやっていくことで、相乗効果をあげる方策もあるのではないか。

●主管課 条件不利地域におけるイベントの役割で、交流人口を増やすという目的があり、イベントの回数は1回より2回、3回が望ましい。

しかし現状の地元の寄付、スタッフの労力からすると、合理的な見方をすれば1回にまとめる方策が考えられる。ただ、その意

見を市からイベント団体に働きかけはしても、押し付けていいのかということを悩んでいるのが現状である。

一方で、自主財源の割合が50%を超えている団体もあれば、ほとんどが行政依存となっている団体もあり、公平性も課題となっている。

例えば市の補助は50%まで、という線引きをすることはできるが、現在、自らイベントをやめる、来年度以降は開催しない、という団体がでつつあり、地元の実行力が弱っているところで補助金が減額となると、市がそれを後押ししてしまうようなことになりかねない。こうした現状から、一律線引きをすることは迷っている状況である。

○委員 経済効果や金額では計れない地域の活性化という部分も地域イベントにはあるので、どういう形で評価するのかという観点は非常に厳しいと思う。一方で、合理性という視点をなくして、ただ闇雲にイベントをすればいいということではなく、類似のイベントをまとめて、そこにより多くの人が来るようなやり方もある。

そういうことを実施団体と上手く話しをしながら、また、地域のモチベーションを下げないように取り組んでいくのが主管課の役割だと思うので、頑張ってください。

●主管課 地域イベントを考えるときに、もう一つ「お客様目線」を考える必要がある。その考えも含めて地元に入って、観光物産協会も一緒になって、取り組んでいくことをやっていきたいと考えている。

○委員 イベントで、年度によって補助金額が変わっているものは、実施団体からの要求か、あるいは実績額によるものだろうか。

●主管課 二つ要素があり、一つは市が補助金の予算そのものを減額している場合、もう一つはイベント実施の実績額による場

合がある。

○**会長** いむた池の花火大会は、昨年はかなり渋滞したという話を聞いた。それで実行委員の方のモチベーションが下がったのではないかと思っているが、どう感じているか。

●**主管課** その現場にいたが、昨年から安全面を優先し、路上駐車をさせないという方針になった。そのため、下の駐車場から会場までのピストン輸送となったが、現状は下の駐車場が溢れてしまい、駐車場に止められないクレーム処理と、上に上がれないクレーム処理で実行委員の方が疲弊されていた。

実行委員の世代交代が進んでおらず、昨年イベントが終わった時点では、もう来年度以降はしない、と実行委員会は言っていたが、お客様目線からイベントを考えると、いむた池の花火大会は鹿児島市からの観客が多いイベントである。ただ外からの観客ということでクレームも強く、ボランティアスタッフは疲労困憊した様子だった。

(補助金の説明・8件)

- ・ふるさと再発見地元もりあげ事業補助金
- ・海・ふれ愛 in 西方補助金
- ・港まつり事業補助金
- ・甕大明神マラソン大会補助金
- ・薩摩川内はんやまつり補助金
- ・市比野温泉よさこい祭補助金
- ・市比野温泉杯サッカー大会補助金
- ・上甕夏祭り事業補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 甕大明神マラソン大会、薩摩川内はんやまつりについて、補助に依存している割合が高い。これらのイベントは、かつてはそれぞれ市あるいは村が直接事業を行っており、現在実行委員会となっているが、自治体が丸抱えでやっていた経緯がある分、実行委員会の認識も補助金依存になっ

ているのではないだろうか。

もう一つの川内の大きな祭りである川内大綱引と比べると、大綱引の方は協賛金が多く集まっているようである。

はんやまつりの実行委員会は、もう少し自助努力をすべきではないだろうか。

●**主管課** 行政から仕掛けた経緯があるご指摘にあるようなイベントについては、補助金依存率が高い状況である。これらについては、イベントのあり方、存続も含めて時代が変わってきていることも踏まえ、検討材料とさせていただきたい。

○**委員** 上甕夏祭り事業補助金について、「地域おこし協力隊とも連携し、更なる観光誘客への取組を進めていく」とあるが、連携とは具体的にどのようなことか。

●**主管課** 夏祭りに限らず、イベントを旅行商品化できないか、あるいはイベントの名称をつけた物産ができないか、そうした商品企画・商品開発と連動する取組を、連携と記載したところである。

何十万の寄附金に代わるような財源とはならないが、地元に着ちるお金は確実に広がることから、地域おこし協力隊に色々と考えてもらっているところである。

○**委員** お聞きしたいところが、ソフトとしてのイベントを商品化するという部分。分かりやすく説明してほしい。

●**主管課** 実際の例を挙げると、アクアスロン大会の際にオプションルツアーを地域おこし協力隊が企画した。

現在地域おこし協力隊が地域のイベントを手伝っているが、イベントに付随する商品がないという現状である。当日のイベントが終了すればそれで終わりだったので、そうではなく、関連グッズ、アクアスロン大会では手ぬぐいを作ったが、そういう派生商品を企画しようとしている。

商品開発の定義は、旅・食・品とし、この3種類の商品開発を行っている。

○会長 西方は今後どうなるのか。

●主管課 やめると聞いていたが、今は規模を縮小して実施するという意向のようだ。従前は昼から夜までのイベントであったが、夜だけ行うことを考えている模様である。

(補助金の説明・9件)

- ・西郷どん御狩場マラソン補助金
- ・川内駅前イルミネーション事業補助金
- ・川内川花火大会補助金
- ・川内大綱引補助金
- ・東郷夏まつり納涼花火大会補助金
- ・入来町夏まつり納涼花火大会補助金
- ・八重山高原星物語補助金
- ・里夏祭り事業補助金
- ・竜宮文化フェスタ補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 竜宮文化フェスタは補助金依存率が高い。実行委員の方は、市の補助金があるから、という意識にならず、もっと頑張っていたきたい。

○委員 川内大綱引や川内川花火大会で、成果指標に観客動員を挙げているが、どのくらい正確に数字を把握しているのだろうか。

川内大綱引でいえば、平成23年度は10万人、平成24年度は6万人と、4万人も減っているのは成果指標としてどうなのか。

また、川内川花火大会も平成23年度から平成24年度にかけて2万人の減となっている。

成果として測るのであれば、ある程度の正確性を求める必要があると思うが、主管課の見解はどうか。

●主管課 観客動員数については、観光統計の大きな課題となっている。あるイベントでは、1時間、歩いている人をカウンターで数え、その人数にイベントの時間数を掛けるとする方法をとっている。川内大綱引

の際はその方法はとっておらず、資料は主催者発表を参考にしているところである。適切な指標のとり方がないと、チェックアクションに繋がらないというジレンマがありながら、有効な手立てがない。観光行政に携わる人の共通の課題となっている。

○副会長 経費を1人当たりの参加人数で出したときに、一番高いのが海辺の学校であり、1人当たり、12,870円かかっている。そして、イベント自体の補助率は67%である。そのあたりをこれからどうしていくのが課題となるのでは。

その次が11,940円、こしき島アクアスロン大会で、これは市の補助率が33.5%である。経費をかけた分、リピーターとなって、観光につながっていくのありがたいが、費用対効果も同時に見ていく必要がある。

今回色々なイベントがでていますが、甑島は行くだけでも旅費がかかるので、年1回、どうしても行きたいと思うようなイベントにすれば参加者が増えるのでは。

さきほど、イベントの回数が1回より3回あればいいという話もしたが、甑島は観光客目線で見れば、旅費がかかる場所であるので、イベントを集約して大きくして、参加する人も、参加者について来る人も楽しめるような形にした方が、集客力があがっていくように思う。

●主管課 甑島でのイベントの集約がしにくい理由の一つに、宿泊の上限がある。アクアスロン大会では、現在同行する家族まで含め、150名で一杯で、これ以上は宿がとれない状態である。

海辺の学校は、「エコ」をキーワードとした観光が成り立たないかという企画で4・5年前にスタートし、現在実証の時期は終わっている。続けるべきかどうかを地元の若者と話を始めているところである。

アクアスロン大会については、秋から冬にかけてのお客様の発掘と、蘭牟田瀬戸架橋

が実現してからのトライアスロン大会への転換を見据えており、その仕掛けを現在作っているところである。今年で3回目、地元の方のボランティアが300人位動員されている。「橋がかかるまでは頑張るぞ」という御意見と、「もう大変だ」という御意見があるので、今年のイベントが終わった段階で、今後の取扱いについて地元と意見交換したい。

ただ、概観ではあるが、海辺の学校での宿泊者は少ないが、アクアスロン大会では1泊2日以上以上の宿泊・滞在となり、お金を使われる方が多く、オプションツアーが成立する。アクアスロン大会以外の時期に来られる方、ブログで発信される方もいらっしゃるので、そうした客層のリサーチもイベントと兼ねている状況である。こうした部分も含めて、今後のあり方を検討してみたい。

○副会長 こうした大会があるときには船を臨時で運航する、あるいはお盆・連休の時期などに、高速船を増便する、そういう対応も考えられるのでは。

●主管課 5月の連休、そしてお盆の時期は、臨時便を運行しているところである。臨時便の運行については、高速船が国の補助航路であり、年間で臨時便運行の制限があると聞いている。それを踏まえて色々考えてみたい。

○委員 各地域のマラソン大会が挙がっているが、川内川河口マラソンは補助の対象とはなっていないのか。

●主管課 縦割りであるが、川内川河口マラソンは教育委員会が所管している。担当課は市民スポーツ課となっている。

○副会長 川内地域での夏祭りも各地域で開催されているが、どこも同じ時期にあるので、1年ごとの持ち回りにする方法を考えられるのでは。

●主管課 夏祭りについては、誰のイベント

かという、やはり地元の方のためのイベントで、なかなか言いづらい。

お客様目線からすれば色々回りたいという希望もあるので、地元の方との話題には出しているが、ほとんどの夏祭りの参加者は地元の出身者の方が多く、大反対にあっているところである。

○委員 私も地元の夏祭りの実行をしたときに、今言われたような、夏祭りをまとめてはどうかという話が出ていた。

そうしたときによく出るのが、「地元の夏祭りだから行っている、何でわざわざ遠いところの夏祭りに行かなきゃいけないのか」という意見。地元の夏祭りがいないから他の夏祭りに行こうかとはならず、地元で夏祭りがいないならもう行かない、となることが多い。

私も若いときからそういう問題提起はしてきたし、選択と集中という方法もあるのではないかと先ほど話したが、地域のイベントは地元にあるからこそ行くのであって、まとめて大きなイベントとするより、逆にもう少し小さな、補助金をもらわなくてもできる程度のイベントを増やしてほしいという意見もある。

○副会長 県外の方も呼び込もうとするイベントと、地元のためのイベントと、分けて考えたほうがいいのかもかもしれない。

●主管課 地域イベントなのか、交流人口を増やすためのイベントなのかを仕分けていくことを実は試みてはいたが、なかなか難しいものだった。

観光イベントが何のためのものであるのか、誰のためのものであるのか、常に考えながら取り組んでいるので、また改めて検討したい。

(主管課退席後、評価・まとめ)

○会長 1つの事務事業に、25の補助金を見ていただいたところである。補助率が高い

イベントの実施団体については、総括して自主財源の獲得に努めていただきたいという委員の御意見を主体とした評価で御了解いただけるだろうか。

○委員 異議なし。

○委員 特に竜宮フェスタについては、実行委員の方への出会謝金が支出されている。自分たちで実行するイベントに、自ら謝金を出しているのは納得がいかない。

○会長 筆耕賃金に125,000円と実績報告にあるが、事業費全体と比較して結構な金額となっている。

○委員 確かに筆耕賃金の支出が適正なのか疑問。

○会長 個別の御指摘もある中で、やはり補助金の割合が高いものについては自助努力を、協賛金等は主管課でも言われていたが、市外や島外の協賛も募れるよう取り組みをしてほしい、という評価をしたい。一様に補助金の依存率が高いということは、再度指摘をしたい。

また、イベントの継続についてモチベーションが続かない団体については、無理に続けさせようとはせず、一度やめてみるのもいいのではないだろうか。やめてみて分かることもあると思う。そこから再度、また実行するかどうかを考えるといいのでは。それでは、事務事業の評価に入りたい。今後の改革の方向性について、事務事業の内部評価では「見直しの上で継続：手段の改善」としている。主管課としては、今後手を入れていきたいという内容の評価となっているが、この評価内容を汲む形でよろしいか。

○委員 異議なし。

○会長 外部評価について、妥当性、効率性、有効性それぞれ「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし。

○会長 今後の改革の方向性は、主管課の方

向性と同じく、「見直しの上で継続：手段の改善」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし。

○会長 補助金への評価については、特に、自主財源確保に努められたいということをつけ加えたい。

以上で本日の外部評価を終了する。